

# 南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報

(急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

第7週 2026年2月9日 ~ 2月15日

## 今週のコメント

南丹保健所管内では、インフルエンザと水痘が警報レベル継続中です。

南丹保健所管内の感染性胃腸炎が警報レベル解除になりました。

京都府内では、インフルエンザが第6週に警報レベルに達し、現在も継続中です。

## 2026年第7週の報告です。

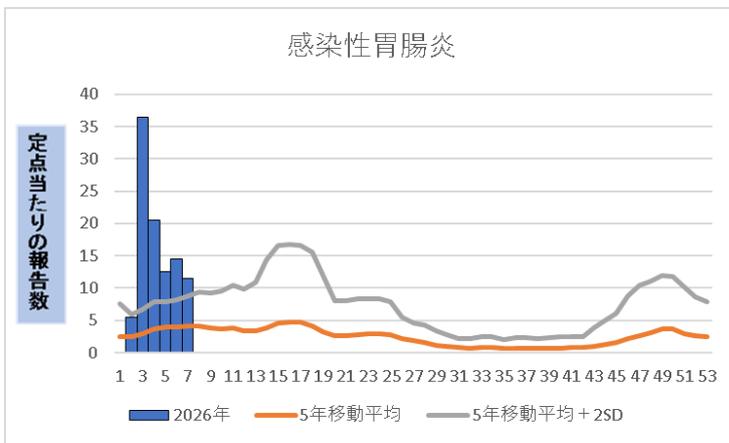
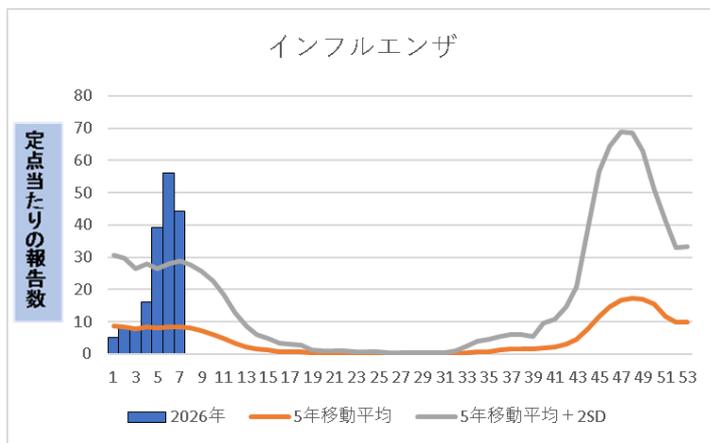
○インフルエンザの定点当たりの報告数は南丹 44.25(前週 56.00)、京都府 41.16(前週 40.06)となっています。

○感染性胃腸炎の定点あたり報告数は、南丹 11.5(前週 14.50)、京都府 6.55(前週 9.21)となっています。

○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点あたり報告数は、南丹 3.00(前週 3.5)、京都府 3.68(前週 6.00)となっています。

○水痘の定点あたり報告数は、南丹 1.50(前週 1.50)、京都府 0.63(前週 0.72)となっています。

## 今週のグラフ (下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています)



※横軸は週数 縦軸は定点あたりの報告数を示しています

1 『5年移動平均』は、過去5年間の平均値の変化を表しています。

2 『5年移動平均+2SD』は、過去5年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約95%がこの線より下に収まるとされる基準です。

## 京都府全体でインフルエンザの警報レベルが継続しています。

基本的な感染症対策(手洗い、咳エチケット、適度な湿度を保つ、人混みを避ける等)をしっかりと行いましょう!

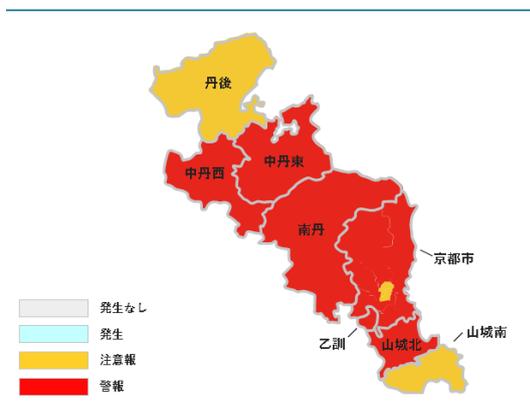
今シーズン(2025/26)は、第46週(11月10日~16日)に警報基準である定点あたり報告数30を超えました。その後、第47週(11月17日~23日)にピークを迎え、以降減少していましたが、2026年第6週(2026年2月2日~8日)に再び警報基準を超えました。

南丹保健所管内では、2026年第5週よりインフルエンザが再び警報レベルになっています。第7週は前週と比較してやや減少しましたが、依然と高い数値が続いています。

基本的な感染対策をしっかりと行い、予防に努めましょう。

京都府のインフルエンザ情報については、[こちら](#) (京都府感染症情報センター)をご確認ください。

今週のインフルエンザ地図(京都府版)



	罹患数	定点当たり
乙訓	299	59.8
山城北	396	39.6
山城南	96	24
南丹	177	44.25
中丹西	103	34.33
中丹東	111	37
丹後	64	21.33

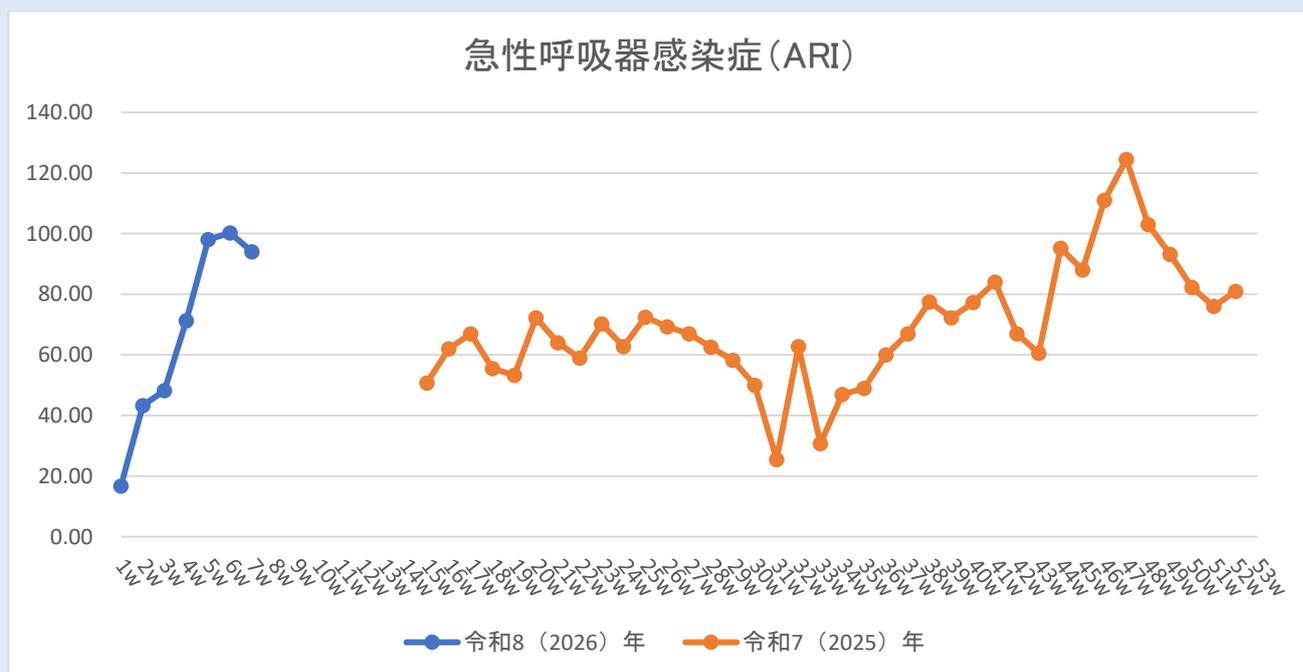
各定点把握疾患 発生状況(南丹管内)

	警報レベル		注意報	R8.7w		前週定点 (参考)
	開始	終息		定点当たり 報告数	前週比	
インフルエンザ*	30	10	10(流行1)	44.25	↘	56.00
新型コロナウイルス感染症				4.75	↗	2.25
RSウイルス感染症				0.00	→	0.00
咽頭結膜熱	3	1		0.00	→	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4		3.00	↘	3.50
感染性胃腸炎	20	12		11.50	↘	14.50
水痘	2	1	1	1.50	→	1.50
手足口病	5	2		0.00	→	0.00
伝染性紅斑	2	1		0.00	→	0.00
突発性発しん				0.50	↗	0.00
ヘルパンギーナ	6	2		0.00	→	0.00
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	→	0.00
急性出血性結膜炎	1	0.1		0.00	→	0.00
流行性角結膜炎	8	4		0.00	→	0.00

急性呼吸器感染症(ARI)について

急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

南丹保健所管内第7週報告数は376件(定点当たりの報告数94.00)でした。[京都府の情報はこちら](#)



最新情報は下記のリンク先でご確認ください(関連リンク)

・[京都府感染症情報センター](#)

更新時期: (原則) 毎週木曜日 14 時 前週分の状況を更新

・[感染症の情報\(国立感染症研究所\)](#)